

十字架が抜けたキリスト（ルカ 9:18-26）

私たちは救われる前にそれぞれ大事にしていたものがあります。また、これこそ価値あるものだと思っていた、そういうものがあります。例えば、人が何よりの価値であり、その中でも家族が一番大事なんだと思う人もいるでしょう。何かのもの、そこにはお金も入ります。それは何より大切なものだと思っていて、また場合によっては、何かのイデオロギーや思想などに染まって、これこそが大切なものであり、価値あるものだと思って生きてきた人もいるでしょう。また、社会的な名誉を手に入れて、名誉こそが大事な価値なんだ。あるいは長い間、受け継がれてきた伝統そのものが大事なものであり、価値あるものだと思っていた人もいるかもしれません。また、個人的に自分のプライドこそが大事なもので、これは傷つけられてはいけないと生きてきたかもしれません。また、何かのことで心の傷を負って、その傷にとらわれて、また、その傷の反動のことを大事にして価値あるものとして生きてきた方もいらっしゃるでしょう。等々、いろいろなものに価値をおいて生きてきたと思います。しかし、神様の恵みによって救われ信者、クリスチャンになりました。いまでもそのようなもの、そのようなことによって泣いたり笑ったり怒ったり悲しんだりしているとすれば、その信者には答えはなかなか期待できません。なのに、残念ながら私たちは、実はそうしているのではないでしょうか。なぜ以前の価値に未だにこだわっているのでしょうか。イエス様を信じようと告白しながらも、なぜ昔の価値に泣いたり笑ったり、振り回される日々を送っているのでしょうか。そのことを今日のメッセージを通して確認し、本当に新しい価値を発見して、今までの価値、今まで大事にしていたものから自由になり、証人としての新しい人生を歩む、そのような祝福を祈りたいと思います。

今日の聖書の箇所を見ますと、イエス様が弟子たちに質問されました。「人々はイエス様のことを誰だと言っているのか」「バプテスマのヨハネ、あるいはエリヤ、預言者の一人、そのように多くの人が言っています」「なら、あなたがたは私のことを誰だと言っているのか」。そのときペテロが「神の御子キリストです」と告白しました。しかし、その後、不思議なことをおっしゃいます。「まだ誰にもこの話をしてはならない」と戒められました。なぜイエス様がキリストだと話してはならないとおっしゃったのでしょうか。その後、イエス様は弟子たちに、イエス様が律法学者、パリサイ人などに捨てられて殺される十字架の話、それから3日目に復活なさる、その十字架と復活のことをお話しされました。たぶん推測というよりは、これから展開を見てみると、弟子たちがイエス様のことを告白はしているけれども、このイエス様が苦しめられて十字架で死なれる、十字架と復活のことは1mmも気づいていないので、まだまだあなたがたがわかっているキリストは正しいキリストではないので話してはいけませんとおっしゃったのではないかと思います。だから、イエス様は十字架と復活のお話を、それからだからその十字架のイエス様について行くということはどういうことなのか。それに対してお話をしている箇所です。

1. 十字架のないキリスト

つまり、信者なのに昔の価値に振り回されて、答えからどんどん遠くなっていく残念な現実の理由は、イエス様の十字架のことがまだよくわかつていないからと言えるのではないでしょうか。言葉を変えますと、キリスト、キリストと言いながらも、十字架が抜けているキリスト、十字架のないキリストなので、私たちは信者で礼拝を捧げて教会に通っているにもかかわらず、過去に振り回されるようになるしかないのではないかでしょうか。もちろん、イエス様がキリストだということを知らない人の告白は言うまでもありません。十字架などは眼中にもありません。

1) 群衆-バプテスマのヨハネ、エリヤ、預言者

だから、群衆はイエス様のことをバプテスマのヨハネだと。うっかりすると、十字架が抜けてしまうと、キリストと言いながらもこのような信仰になりかねません。バプテスマのヨハネというのは、表に現れた是々非々によって、それがすべてのテーマなのです。何が正しいか正しくないかが究極のテーマになってしまいます。それはまだキリストのことがよくわかつていないという裏返しなのです。エリヤというのは一言で申し上げると、自己満足をいちばんのテーマにするわけです。自己満足のためには何でもかんで

も求めてよろしいわけです。そういう信仰になりかねないわけですね。それから、預言者というのは、ただ聖書の知識、教理的な知識をによって満足して、それこそそこに救いがあるというような信仰、そのような考え方を意味します。十字架のことが全くわかつていなままイエス様の噂を聞きますと、群衆のような信仰にならざるを得ません。

2) 弟子たち-キリスト告白(十字架のない)

問題なのは、いまイエス様について教会生活をし、礼拝も捧げている弟子たちの信仰の問題です。弟子たちは見事に群衆とは違って、「あなたは神の御子キリストですよ」と告白しました。にもかかわらず、残念ながら十字架のないキリストなのです。そんなことあり得るのでしょうか。私たちは十字架のことをたくさん聞いたので、当たり前に入るのでしょうかけれども、十字架という言葉がわかつていっぱい聞いたとしても、本当に十字架を信じるか信じないかとは別の話なのです。弟子たちはいま十字架の出来事の前の段階なので、見たこともないし、聞こえても聞こうともしないし、聞く耳を持たないし、彼らの眼中にはイエス様が、キリストが十字架で死ぬなんてありえないです。なので、「あなたは神の御子キリストですよ」と見事に告白はしましたけれども、ユダヤ人が今までずっと待っていたメシヤと同じキリストなのです。そのことに対しては2部礼拝でもう少し詳細に申し上げます。「あなたはキリストです」と告白しながらも、ユダヤ人がずっと待っていたメシヤ、キリスト、イスラエルのヒーローのようなキリストなのです。十字架が抜けてしまうと、キリストはそのようなキリストになります。

3) 十字架のキリスト-創世記 3:15、出エジプト 3:18、イザヤ 53:5

しかし、キリストは最初から十字架のために、十字架を背負うために、十字架で殺されるために来られると約束されていました。十字架抜きでキリストを理解するということはありません。言語道断です。しかし、残念ながら、世界中のキリスト教会が、信者の方々が、いま十字架、十字架と言いながらも十字架が抜けているのです。誰のしわざなのでしょうか。悪魔サタンの見事なしわざなのです。そうすると、キリスト教会は宗教にならざるを得ません。キリストは十字架のために来られる方です。十字架で死ななければいけません。一番最初、キリストが約束されたときにも、女の子孫が生まれて、蛇の頭を踏み碎く、そのためにはかかとに噛み付かれて血を流すことが預言されていました。そして、それが見事に明らかに預言に変わったのは、出エジプト 3:18、来られるキリストは、私たちの罪の代わりに犠牲のいけにえになる方なのです。十字架でご自分のいのちをご自分の体を犠牲のいけにえとして捧げる、そういう方なのです。そのように旧約聖書には明言されています。それがもっと細かく預言が解き明かされている箇所が、イザヤ 53:5 です。「しかし、彼は私たちの背きのために刺され、私たちの咎のために碎かれたのだ。彼への懲らしみが私たちに平安をもたらし、その打ち傷のゆえに、私たちは癒やされた」。これがキリストです。キリストと十字架は切り離すことができないものなのです。なのに弟子たちは、ユダヤ人たちは、キリストを待ち望みながら十字架は抜けているのです。それをもはやキリストではありません。悪魔が見事に光の天使のように変装して惑わしているしわざなのです。今日礼拝を捧げている皆さん、皆さんが信じているイエス様はキリストです。そのキリストは十字架のキリストなのです。今日のメッセージを通して、もしかして自分の信仰に十字架が抜けていたとなれば、それが皆さんのが今悩んでいる、患っているすべての問題を理由であるということに気づいていただきたいと思います。

4) 絶対解決不可能な問題-ローマ 3:23、エペソ 2:1、ヨハネ 8:44、エペソ 2:2-3

なぜキリストと十字架は切り離すことができないのでしょうか。キリストはなぜ十字架に向かって来られたのでしょうか。神の御子、罪のないキリストが十字架でご自分のいのちを捧げて犠牲にならなければ絶対に解決不可能な問題を私たち人間は抱えているからなのです。つまり、キリストと言いながらも十字架が抜けてしまったというのは、自分の問題、人間の本当の問題が何かについてまだ気づいていないということなのです。いまだに親が問題であり、自分の弱点が問題であり、自分の外見、この社会、学校が問題だとクリスチヤンが思っている限り、そこに十字架が入る余地はありません。結局は教会へ通う理由も消えてなくなります。すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができない。人は神によって造られて神様と一緒にいた。にもかかわらず、悪魔に惑わされていのちの根源である神様を離れてしまい、人間自らは何をどうしても神様に会うことができません。絶対不可能なのです。それをエペソ 2:1 には「あなたがたは自分の背きと罪の中に死んでいた者であり」、だから私たち人間だけに許されているたましいが死んでしまいました。たましいにいのちが与えられることは、教育によってでも心理学でも科

学の発展でも不可能なのです。だから、科学が発展していのちがないまま、神を失っているまま滅びていくわけです。神様を離れてたましいが死んでしまったままの状態なので、裏返しますと、「あなたがたは、悪魔である父から出た者」であり、悪魔がお父さんであり、悪魔の支配の中で生きるしかない存在になりました。その悪魔には誰が何をどうしようが勝てません。悪魔がいることさえ気づいていないので。核兵器をもってでも悪魔にはかなわないで。だからキリストが、罪のない神の御子キリストが十字架で死ぬことの他にはこの問題を解決できません。これが刑務所の中にいる特別な犯罪者の話、麻薬中毒者の話のように聞こえていたら、皆さんもまだ十字架とは無関係ではないでしょうか。私なのです。私の家庭がそういうものなのです。私が自分の目に入れても痛くないほど愛している愛おしい自分の子どもがこういう存在なのです。これを認めないでキリストをハレルヤ、ハレルヤというのはエリヤのような信仰になります。見事に騙されるのです。結局、自分なりに一生懸命頑張っても悪魔に従って生きるしかありません。悪魔が喜ぶことしかできません。空中の権威を持つ支配者が作り出した世の流れに逆らって生きることは不可能であり、むしろ好んで従っていくようになります。だからみな宗教を求めて偶像崇拜をしたり、いやいや人間最高なんだというヒューマニズムが好きでしょう。それは全部悪魔が作り出した世の流れというものなのです。なので、生まれながら希望などありません。子どもが何をどうするかによって希望になったり、絶望になったりするわけではなくて、生まれながら神の御怒りを受ける子らとして生まれ、生まれながら地獄の運命を抱えて生まれた者なのです。何でこの地獄の運命を解決することができるのでしょうか。これが私たちの悩みの本当の原因なのです。皆さんが悩んでいる家庭のさまざま問題。その裏の裏にある本当の理由はここなのです。誰かのせい、何かのせいではありません。十字架が抜けてしまったというのは、絶対解決不可能なこの靈的問題を認めないか、聞いたことがないか、信じないか、どちらかの一つでしょう。このことがわかっていないので、キリストと言いながらも十字架が抜けてしまって、そのキリストはキリストと言いながらも表に現れている問題、その問題を解決するために必要な方、つまり、問題解決師になるのです。それがエリヤなのです。それがバプテスマのヨハネなのです。多くのクリスチヤンの方々が信じているキリスト像が何なのかというと、問題解決師なのです。どうしたら私が描いているその幸せを私にもたらしてくれるのか。どうしたら今私が悩んでいるこの問題をどうにかしてくれるか。キリスト、キリスト、キリスト。ユダヤ人と何が違うのでしょうか。キリストは皆さんの悩みの解決のために病気を癒すために来られた方ではありません。そうならば十字架で死なれる理由はありません。だから、十字架を否定するようになります。十字架はいりません。十字架なんて言わないように。それが信者なのに過去に振り回される本当の理由なのです。

5) 真の宝、価値、願いとは？ピリピ 3:8

なのでいまだにその人にとって人生の最高の宝はキリストではありません。最高の価値は昔のままなのです。だから願いも問題の解決なのです。願いも金持ちであり、願いも幸せであり、願いも成功なのです。そのままなのです。なぜなのでしょうか。本当の問題が何かわかつていないし、だから十字架が何かわかつっていない。十字架のないイエス様、十字架のないキリストを信じているからです。キリスト、キリストと言いながらも十字架が抜けてしまったときには、自分自身にとって信者なのに最高の価値は昔のまま、願いも昔のままなのです。だから、それによって泣いたり笑ったりするしかありません。しかし、神様の恵みにより絶対解決不可能な靈的な問題に気づき、それを心の底から認めて、キリストの十字架でなければいけない、十字架の絶対必要がわかったときに、今まで自分が大事にしていて、それに振り回されて笑ったり泣いたりしていたそのすべてのことちりあくたと宣言し告白して、そこから自由になります。そうでないとクリスチヤンとして世の中を生きていけません。いまだに世の中で羨ましい人がいるとなれば、私たちはまだキリストがよくわかつていないことなのです。世の中で憧れの対象になる人がいまだに存在するとなれば、私たちは十字架のことがわかつていないことでしょう。誰が羨ましいのでしょうか。キリストでなければ滅びるしかないとましいなのです。大統領でも芸能人でもビル・ゲイツでも。誰が、どこが羨ましいのでしょうか。まだわかつていないのではないのでしょうか。金持ちが羨ましいのでしょうか。とてもまじめで迷惑かけない穏やかな性格。みなに褒められる、そういう人が羨ましいのでしょうか。まだ人の靈的な問題などを知らないわけでしょう。知らないのではないのでしょうか。と言いますのは、キリスト、キリストと言いながらも十字架のないキリストなのです。キリストではありません。それは仏像も一緒なのです。イスラム教が求めているものも一緒なのです。十字架のないキリスト。ユダヤ人は最初から十字架のキリストを拒否したので、だから戦争するしかありません。これが答えのあふれる人

生が約束されているクリスチヤンなのに、なかなかそれと自分とはマッチングしない理由なのです。もしここが理由だということを素直に認めないと、また別のところで理由があるかなと思って探し求めるようになります。それをさまよう、また嘘つきと言うのです。

2. 十字架の価値(23-25)

十字架のキリストを正しく信じることができるようにになった。つまり、十字架の価値がわかつたときに、キリストが Only キリスト、絶対キリストになるのです。キリストの価値が輝くようになります。そこからスタートなのです。キリストの栄光の輝きが私の内側で輝くようになったときに、神の国が現れたときに、私の内側にあった古きサタンのやぐら、暗闇のやぐらが碎かれて、証拠が現れて、そのときからスタートなのです。神様は私たちを愛していらっしゃるし、私たちが目標なのです。皆さんを通して何かをさせることではありません。皆さんのがこのように十字架の信仰の人になれば、神様は皆さんを動かします。皆さん周りを動かします。それで皆さんには、なるほど、なるほど、そうだったのかとどんどん癒されていき怖いものなし、そういうクリスチヤンになっていきます。23 節から 25 節に、その十字架の価値、キリストの価値についてイエス様がおっしゃいました。「イエスは皆に言われた。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負って、わたしに従って来なさい」。自分を救おうとする者は失い、命を救おうとしてキリストを捨てるものは失うということです。25 節、全世界を手に入れても、もし自分が死んでしまうとそれで何の得になるのか。全世界より自分の命が大切でしょう。しかし、その命より大切なものがいるんだと。その十字架のキリストの価値についておっしゃっているのです。

1) 命より大事な十字架

十字架はどのような価値なのでしょうか。本当に十字架に目覚めると、今まで価値があると思っていた全部にちりあくたと宣言して、自分の命より大事な十字架になります。

2) 世界より大事な十字架

今、イエス様がおっしゃったように、全世界より自分の命が大切なのです。今日皆さんに世界のすべての不動産の権利をあげます。ただ、条件としてあなたの命をちょうどいとなれば、そのやり取りをやりますか。どういう意味かわかりますか。それほど大切な自分の命、この命が価値あると思って十字架を拒むことがあるとすれば、それほど愚かなことはないのだと。十字架はあなたの命が百個あっても解決できない靈的な問題、神を離れて悪魔の支配の中で地獄の運命に囚われている、その問題を解決する神様の方法なのだと。あなたの命をいくら立派に格好良く捧げたとしても、その問題の解決には 1mm も役に立たない、そういう意味なのです。それに気づいてほしい、それに気づくまでは言わないように。全世界より大事な十字架です。だから改めて申し上げます。

3) ピリピ 3:8

これに気づいたパウロが今まで誇りに思っていた大事に思っていた、価値あると思って命を懸けて守っていたすべてをちりあくたと告白しています。これが十字架の価値がわかつたクリスチヤンの信仰なのです。

4) 唯一、絶対価値

十字架のキリストは何物とも比べることができない唯一の価値であり、絶対価値なのです。これにクリスチヤンの私たちが本当に気づいて、心からそのように信仰告白をして、いま死んでもすべて失っても、私はキリストの十字架によって救われて、主がともにおられる幸いなものです。大丈夫です。私はハッピーですと言えるかどうかなのです。就職できるかどうか、大学に入れるかどうか、病気が治るかどうかと関係なく、私は幸いなもの、わたしは幸せなもの。私は全世界より価値あるいはのちを与えられるものなのだ。

5) ヨハネ 19:30、エペソ 1:3、1 コリント 3:16

十字架の上でイエス様が宣言されました。すべてを完了したと。これが十字架の価値なのです。唯一絶対価値であると同時に、その十字架によって私の過去、現在、未来のすべての問題が全部解決できて終わつ

たわけです。それだけではありません。地上のなものと比べることでできない、天にある靈的すべての祝福が私のものになりました。十字架によって。これが十字架の価値です。皆さんのが一生涯の給料を全部集めて出しても御座の祝福とは1mmも関係ありません。御座の祝福がなければ、地上を歩くときに勝利は不可能なのです。その御座のすべて祝福が、三位一体の神様が、永遠に私の内側に宿ることになりました。十字架によって。これが十字架です。二部礼拝でも申し上げますが、だから古いものは過ぎ去り、すべてが新しくなる。全く新しいものを作り変えられるようになります。十字架によって。だから皆さんの過去、どのような宗教的な背景、また滅びの呪いの災いの背景などがあったのかわかりませんが、十字架によって終わったと毎日宣言しなければなりません。特に偶像崇拝が激しい、あるいは靈媒師が関わっている家系は目立つようにそういう症状がいろいろ現れます。それがもはや終わったと、これがキリスト、これが十字架の価値なのです。だから地上にいる間に限界ある肉体を持って生きているのですが、あなたがたは聖靈が宿っている神の神殿であることがわかっていないのか。私を神の神殿にしてしまうものが十字架なのです。これが十字架の価値です。何が羨ましいのでしょうか。まだわかっていないからではないでしょうか。素直にならないといけません。神様が信者に与えられる恵みの中で一番大きなものは、正直な靈、素直になる靈を与えられることだと思います。だから、ダビデもそのように祈っていました。「神様、私の内側に正直になる靈を」と。正直にならないのです。牧師の場合、プライドがあるから、なかなか正直にななりません。本当は自分が弟子化されていないので、弟子運動がいま起きていないと認めるべきなのに、そんな..神学を学び、牧師の挨拶を受けて、今までタラッパンを頑張ってきたのに自分が弟子ではないと認めるわけにはいかないと、なかなか素直になれないのです。そこに悪魔がその人の考えを捕らえるわけです。信者も同じなのです。メッセージを聞いて素直になって素直に認めると、そこからスタートするのに、なかなか認めない。となると、また別の理由を取り上げ、また別の理由を探し求めます。ずっとその繰り返しなのです。もう終わりにしないといけません。十字架の前で。

それでこのような価値なので、絶対唯一の価値なので、イエス様はこの十字架を恥と思う人、つまり十字架は必要ではないと拒む人は、キリストもその人を恥と思うよ。キリストも最後の日にその人はいらぬいとおっしゃるほどの絶対価値であることを覚えて、今まで神様の恵みによって信仰生活をしていたでしようけれども、素直に自分自身を顧みて、もしかしたら自分の信仰が十字架のないキリストだったのではないかということを悔い改めましょう。「十字架? わかってますよ」。なのに何がそんなに羨ましいのか。なのに何でそんなに笑ったり泣いたりしているのか。素直にならないと。

そして、イエス様は私のためになぜ十字架で死ななければいけなかったのか。そのイエス様の十字架と私とどういう関係があるのか。本当にイエス様が十字架で死ななければ解決できない問題が私にあったのか。それほど私はダメだったのかということを問い合わせましょう。神様は必ず答えを与えられると思います。プライドも心の傷なども一切無用なのです。それで本当の自分と向き合いましょう。私がわかっている自分、周りから言われている自分が自分ではありません。聖書が言っている自分が自分なのです。それにしっかりと向き合う勇気を持ってください。その結果、今まで私が大事にしていたもの、価値あると思っていたもの、それに基づいて私が持っていた人生の願い等々をすべてちりあくたと宣言して、十字架の下に全部埋めるようにしましょう。いらないものなのです。嘘ではないけれども間違いなのです。それで十字架を回復して、つまり、死と罪の原理から十字架によってもう終わった、これを回復して、古いものは過ぎ去り、すべて新しくなった、これを回復して、第1コリント2:2「なぜなら私は、あなたがたの間で、イエス・キリスト、しかも十字架につけられたキリストのほかには、何も知るまいと決心していたからです」。このような決心を通して十字架によって与えられた祝福、御座の祝福の中に入る、祈る信者になります。その祝福が777です。三位一体の神様がいつもともにおられるから、朝目覚めると今日も三位一体の神様とともにおられる私が生きる一日、その三位一体の神様が導かれる素晴らしい一日、その三位一体の神様が働かれて証拠を与えられる、そのような一日が今日私を待っているわけです。それを思いながら、黙想しながら味わう祈り、その祈りの祝福の中に入る信者になります。暗闇と不信仰のやぐらが碎かれて、皆さんに必ず神の国が臨まれたという証拠が現れるようになるでしょう。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。悪魔は見事にキリストを告白しながらも、十字架が抜けるように仕向けるものであることを確認しました。自分のキリストへの信仰告白を点検して、顧みて十字架が抜けたキリストを悔い改めて、十字架の信仰を回復して、本当に Only 唯一キリストを告白して、御座の祝福の中に大胆に迷うことなく入って祈ることができる、証拠を見る証人となるようにひとりひとりを祝福してください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。